

[成果情報名] 光反射資材によるブドウのクビアカスカシバの被害抑制技術

[要約] 光反射資材（ネオポリシャインクロス T87）で株元地表面を被覆することで、ブドウのクビアカスカシバの被害抑制ができる。

[キーワード] ブドウ、クビアカスカシバ、光反射資材

[担当] 農業技術部、資源循環研究室、病害虫管理グループ

[代表連絡先] 電話 083-927-0211

[研究所名] 山口県農林総合技術センター

[分類] 普及成果情報

[背景・ねらい]

ブドウ栽培ではクビアカスカシバが樹を枯死させるなどの深刻な被害をもたらしているが、有効な防除手段がないため防除対策の確立が急務となっている。本種は昼行性の蛾で、光背反応をかく乱させることで正常な飛翔行動を妨げられると考えられるため、アザミウマ類などの微小害虫の防除に活用されている光反射資材の有効性を確認する

[成果の内容・特徴]

1. 光反射資材のネオポリシャインクロス T87(幅 1,500mm×長さ 50m×厚さ 0.1mm)でブドウ樹の株元地表面を被覆すると、クビアカスカシバの被害痕数は無被覆の 1 / 3 以下に抑えられる（表 1）。
2. 樹幹部のみでなく主枝部でも被害軽減は可能であるが、その程度はやや劣る（表 1）。
3. 設置方法は、ブドウ樹の植え込み列を中心に株元地表面を約 3.0m の幅で被覆し、マルチ押さえで固定する（図 1、2）。
4. 資材の設置は、成虫の産卵行動開始前（山口県では 5 月下旬まで）に行う。

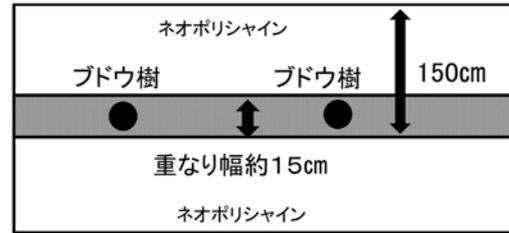
[普及のための参考情報]

1. 普及対象：ブドウ生産者
2. 普及予定地域・普及予定面積・普及台数など：全国ブドウ生産地域 18,000ha
3. スピードスプレーヤーによる薬剤散布を行う園では、機械の走行経路を避けて設置する。
4. 設置資材費は、耐用年数 3 年換算で 10a あたり 13,672 円（被覆資材 11,340 円、被覆資材を固定するための資材 2,332 円）必要となる（表 2）。
5. 光反射資材の株元地表面被覆は、成虫の忌避効果だけでなく、株元の防草により食入痕の早期発見につながるるとともに薬剤の到達が良好となる。

[具体的データ]



図1 設置状況



資材はブドウ樹の両側から約15cmの重なり幅で設置し、マルチ押さえで固定する。

図2 光反射資材設置方法

表1 光反射資材株元地表面被覆のクビアカスカシバに対する防除効果

	2013年						2014年					
	被害痕数			幼虫数			被害痕数			幼虫数		
	幹	枝	合計	幹	枝	合計	幹	枝	合計	幹	枝	合計
被覆区	6	-	6	3	-	3	2	22	24	1	12	13
無被覆区	38	-	38	23	-	23	23	63	86	13	38	51

注1) 2013年の被害痕数、幼虫数は7月19日～10月1日の8回調査の合計、2014年は被害痕数、幼虫数は7月14日～10月9日の9回調査の合計。

注2) 被害は各調査日ごとに虫糞の排出があるものを計数

注3) 調査樹は品種「ピオーネ」で、両区の被害履歴が同等になるように選定した。

注4) 調査樹数は2013年各区6本、2014年各区10本。

注5) 幹は樹幹部、枝は主枝部の被害痕数・幼虫数。

注6) 両年とも、両区においてパダンSG水溶剤2回散布。

表2 資材費 10a当たり

資材名	規格	数	価格(円)
ネオポリシャインクロスT87	幅1500mm×長50m×厚0.1mm	2.7本	11,340
黒丸君(マルチ押さえ)	長20cm	219本	2,332
合計			13,672

注1) ネオポリシャインおよび黒丸君は耐用年数3年として換算。

(河村俊和)

[その他]

研究課題名：ブドウのクビアカスカシバの防除対策の確立

予算区分：交付金（病害虫防除農薬環境リスク低減技術確立）

研究期間：2013～2015年度

研究担当者：河村俊和